

安心と笑顔のために

日本共産党札幌市議団ニュース

No. 297 2023年2月17日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

アイヌ民族の誇りを守るため、国へ意見書を

2月13日 財政市民委員会 佐々木議員

「アイヌ長老エカシ・フチへの特別支援制度の確立を国・道に求める意見書の提出を求める」請願が『エカシ』『フチ』への『特別支援』を求める会から出され、日本共産党札幌市議団と市民ネットワーク北海道が紹介議員となり、市への質疑に佐々木議員が立ちました。

佐々木議員は「アイヌ先住民族の置かれている歴史的な背景の中で、札幌市はアイヌのエカシ・フチをどのような存在と捉えているのか」と質問。市の担当者は「アイヌ民族の関係団体からは、子どもの頃にエカシ・フチなどから教わった経験がもとになり、伝統的な習慣が身につくといったご意見などを頂いている。知識や経験を次の世代に伝えていくという、特に重要な役割を果たしていただく方々であると認識している」と答弁。また「北海道アイヌ生活実態調査に対する分析と受け止めはいかがか」と質問。市の担当者は「いずれに関しても改善傾向が見られるものの、依然として格差がみられる状況にあるものと認識をしている」と答弁しました。一方で市側は「特別な存在、格差は認識している」と認めてはいるものの、取り組んでいる対策については、生活保護や相談窓口の設置など和人と同じ対応にとどまっておらず、特別な取り組みにまでは至っていません。

最後に佐々木議員から「札幌市議会として意見書を出すことは、札幌市のアイヌ政策推進計画のアイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現にも繋がる。」と賛同を呼びかけましたが、継続審査多数で、継続審査となり事実上の棚上げとなりました。

アイヌ民族の怒り・悲しみがあらわに

2月13日 日本共産党札幌市議団

『エカシ』『フチ』への『特別支援』を求める会の共同代表・阿部一司さんから傍聴者7人と、委員会閉会後に報告会を兼ねて懇談。日本共産党からは、質疑に立った佐々木議員、また、佐藤議員、池田議員、吉岡議員、千葉議員が参加、同じく紹介議員の市民ネットワーク北海道、石川議員が参加しました。

「昭和59年に当時のウタリ協会で、北海道旧土人保護法に代わって「アイヌ民族に関する法律(案)」の制定を求める運動をおこしアイヌ古老への年金や子どもの教育の充実を求めて会員からの募金を集めた。いまだに実現していない」「政府の同化政策で、アイヌ民族は強制移住により土地と資源を奪われ、かつて今の札幌市内には、フシココタン、ハッサムコタン、コトニコタンという3つのコタンがあったが、土地を追われた美唄などに移り住んだ。残ったのは差別であり、事実を話すことを抑えてきた。エカシやフチは泣きながら暮らしてきた。見ないふりをしないで政治には向き合ってほしい」と、政府の責任で生活保障を実施するよう札幌市がさらに声をあげてほしいと口々に訴えました。一方で札幌市は、アイヌの相談窓口を設けてはいるが、あれはあるだけだ、人を探して欲しいといっても探さない、言伝を頼んでもやってくれない、ひどい対応でここでも苦しんでいる。アイヌ民族は放置されていると切実な実態も語られました。

最後に各議員から感想が出され、「今も差別や偏見に苦しんでいるという怒りを目の当たりにして、もっと学習を積み重ねないといけない」と今後の取り組みへの決意を新たにしました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。